

手稲の風と共に

【発行】

令和7年(2027年)3月28日

北海道札幌手稲高等学校

今春の国公立大学への現役合格者は153名!
～今年度も、生徒の頑張りと粘り強い取組が奏功～

【国公立大学】

北海道大学	11名	小樽商科大学	23名	北海道教育大学	32名	帯広畜産大学	2名
室蘭工業大学	10名	北見工業大学	3名	札幌医大	3名	札幌市立大学	2名
釧路公立大学	14名	名寄市立大学	4名	公立千歳科学技術大学	9名	公立はこだて未来大学	2名
旭川市立大学	4名	小樽商科大学夜間主	3名	【道内国公立大学合計 122名】			

弘前大学	16名	岩手大学	3名	秋田大学	1名	山形大学	2名
福島大学	1名	宇都宮大学	1名	群馬大学	1名	新潟大学	3名
京都大学	1名	香川大学	1名	鹿児島大学	1名	琉球大学	1名
青森県立保健大学	2名	高崎経済大学	2名	埼玉県立大学	1名	神奈川県立保健福祉大学	1名
山梨県立大学	1名	大阪公立大学	1名	【道外国公立大学合計 40名】			

【道内私立大学・短期大学】

札幌大学、札幌学院大学、札幌国際大学、藤女子大学、北星学園大学、北海学園大学、北海商科大学、北海道医療大学、北海道科学大学、北海道武蔵女子大学、酪農学園大学、北翔大学、天使大学、日赤北海道看護大学、北海道文教大学、札幌保健医療大学、千歳リハビリテーション大学、日本医療大学、北海道武蔵女子短期大学、國學院短期大学北海道短期大学部

【道外私立大学・短期大学】

青山学院大学、東京国際大学、千葉工業大学、北里大学、慶應義塾大学、駒澤大学、成蹊大学、専修大学、中央大学、東海大学、東京電機大学、東洋大学、日本大学、法政大学、武蔵大学、埼玉工業大学、武蔵野大学、明治大学、早稲田大学、神奈川大学、静岡理工科大学、鈴鹿医療科学大学、京都産業大学、同志社大学、立命館大学、関西大学、関西外国語大学、近畿大学、阪南大学、関西学院大学、岡山理科大学、九州産業大学、福岡工業大学、東京女子体育短期大学、関西外国語大学短期大学部

【専修・各種学校等】

北海道看護専門学校、勤医協札幌看護専門学校、小樽市立高等看護学院、北海道医薬専門学校、北海道医療センター附属札幌看護学校、札幌科学技術専門学校、札幌調理製菓専門学校、北海道美容専門学校、専門学校北海道福祉、札幌看護医療専門学校、旭川厚生看護専門学校、日鋼記念看護学校

～令和7年3月26日現在(現・浪含む)～

「大変お世話になりました」

校長 久保 肇

2年間の札幌手稲高等学校校長の職を終え、この3月を持って退職することになりました。教員生活36年間を道立高校の教育活動に携わり、音更高、旭川凌雲高(現・旭川永嶺高)、富良野高、清水高、旭川南高、野幌高、知内高、根室高、そして札幌手稲高の9校にお世話になりました。高校、大学と自分の進路に迷い、いつの日か高校野球の監督をめざし、幸い教員になることができました。教員になれた時の感激は今でも忘れることができません。人生経験も浅く、未熟な自分を先輩教師や同僚、保護者、地域の方々そして、生徒の何気ない一言に支えられ、救われなんとか公立教員としての職を終えることができそうです。多くの失敗もありました。野球部の指導に力が入りすぎ、多くの部員が練習をボイコット。一人だけ練習に参加した生徒とキャッチボールをして終わった夏休みの1日もありました。理想を掲げることも大切ですが、それが生徒の目標や理想なのか、自分のエゴなのか考えるきっかけになりました。(キャッチボールをした唯一の生徒は、現在、音更高の教員として、野球部の監督を務めています。)

北海道道立高校教員の宿命として、全国各地の高校を経験し、生徒の学力はもちろん、様々な地域特性や保護者・地域の価値観に戸惑うこともありましたが、広域の転勤や異動を望まない風潮が強くなる傾向にありますが、私にとっては結果として、教員としての成長や自分自身の価値観の転換を図ることに繋がりと、自分の視野を広げる貴重な時間となりました。前任校の根室高まで、自分のふるさとである札幌の勤務は、なかつたのですが、最後に母校である札幌手稲高に勤務でき、なおかつ創立50周年記念式典を挙げてできたことは自分にとって最高のご褒美と感じています。教育実習以来30年以上経過し、勤務した手稲高には、素直な生徒が自分の夢実現に向かつて、保護者や先生方の期待に応えようと切磋琢磨する風景がそのまま残っていました。「継続は力なり」の校訓と校歌そのものが、スクールアイデンティティとなり脈々と受け継がれる素晴らしい学校です。私が教員として勤務し始めた平成の時代から令和の時代となり学校を取り巻く環境も社会の価値観や保護者、地域が学校に求めるものも変化し続けています。しかし、どんな時代であっても、教師、保護者、地域の方々が生徒を中心に置き、手を携えて、生徒の夢を叶えることを最大のミッションとして「生徒を主語とした教育」を実現することに変わりはありません。今後とも大切にしなければならぬ軸を大切に、変化に対応できる学校として、生徒、保護者、地域の期待に応える学校として邁進します。結びになりますが、あらためてこの2年間、手稲高の教育活動に多大なるご支援・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。退職後も、同窓生の一人として手稲高を応援させていただきます。大変お世話になりました。

後期の学校生活を振り返って



3年受験期のメンタルヘルス



家庭基礎 1-8 食育講座



生徒総会



PTA 社会見学旅行(小樽)



空手道全国(和歌山)壮行会



NIE 新聞コンクール表彰



1年代表 探究チャレンジ 石狩



教員養成セミナー



冬季体育大会 1



冬季体育大会 2



吹奏楽部北海道マラソン応援



高P連全国大会(茨城)



数学授業参観



音楽授業参観



美術授業参観



書道授業参観

生徒会長荒木奏海さん堂々と!

9月の生徒会立会演説会・選挙を終え、9月26日認証式が行われました。荒木さんは「生徒の皆さんの意見を広く集め、深く反映していきたい」と語り、信任されました。第50代生徒会長に就いた荒木さん。その後の行事等でも、他の生徒会執行部の生徒とともに、しっかりとした活動を行っています。



2年見学旅行(3泊4日)

10月19日(土)～22日(火)京都・姫路・広島を中心とした3泊4日の見学旅行に行きました。それぞれの見学地で日本の歴史や伝統文化に接し、自分の将来の生き方を考えるきっかけとなりました。



卒業☆309名

3月1日(土)卒業式挙行。厳粛な中にも温かみのある卒業式で教職員や多くの保護者に見守られながら、309名の生徒が学び舎を巣立って行きました。



令和6年度の学校評価(後期)・体罰調査結果

学校評価(後期)の結果がまとまりました。概ね高い評価をいただいています(HP・楽メ参照)。この評価は、全教職員で共有し、改善への取組を各担当部内で検討し、反省会議で確認の上、次年度の学校運営に反映させていただきくことになっております。特に、今年度は、反省会議を3回に分けて議論しました。いずれも、これからの手稲高校がどうあるべきかを深く考えた意見ばかりで、より良い方向を探ることができました。前期で改善を図ったことに加え、この春休みから、学校前道路の補修・整備事業、教育環境の整備、自習室の検討など、効果を高めてまいります。

体罰アンケートでは、教員の不適切な言動への指摘が数件ありました。指摘を受けた教員は当然のことですが、個々のものにならないよう職員会議では、生徒指導のガイドラインとされる「生徒指導提要」から注意すべきことを取り上げ、生徒の尊厳を大切にしたい教育活動にあたることを確認しました。

1年次インターンシップ・2年次学び探究ゼミ

本校の特長である「総合的な探究の時間」(1年次「インターンシップミッション」2年次「学び探究ゼミ」)は、ともに、将来を見据え、自分の興味関心に基づいた進路選択につながる大変良い機会となっています。

1年次は仕事を調べ、理解して働く意義を学び、10月17日、64社に1日インターンシップを体験。その後、実体験をまとめた報告会として11月14日、本校体育館にてそれぞれの発表を行いました。

2年次は希望する学問分野を選択し、4週にわたるゼミ形式の課題解決学習に挑戦。札幌市内及び近郊の大学の協力のもと、14講座を開設してディスカッションや実験等を通して深い学びを行いました。



【1年京王プラザ】



【1年勤医協中央病院】



【1年手稲消防署】



【1年手稲山口小学校】



【1年報告会に参加した事業所】



【1年報告会の様子①】



【1年報告会の様子②】



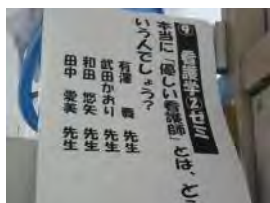
【1年ポスター掲示】



【2年機械工学】



【2年経済学】



【2年看護学】



【2年学び探究に参加した大学関係者】

名物：手稲高校『共通テスト』カウントダウンボード

本校では、2階フロアに「大学入学共通テスト」まで「〇〇日」看板が掲示されています。毎年、年度が変わるとすぐにカウントダウンが始まれ、3年次生が登校してフロアを利用すれば、必ず目に入ってきます。ただのボードに過ぎないものの、受験生には、「無言のプレッシャーをかける存在」です。まだ〇〇〇日と3桁のうちは、気持ちに余裕があるでしょうが、これが2桁、特に、秋が深まった頃に「あと50日」が現れます。その場にたたずむ3年次生に思わず「緊張感が高まりますね」と声をかけたところ、すかさず、「本当にそうです」と返してくれました。

受験生なら誰もが感じる関門、「手稲高校のボード」は、黙って受験生の姿を見つめ、そっと応援してくれています。



卒業生(第48期生)と語る会

3月18日(火) 冬季体育大会を終えた1・2年次生約30名を前に、本校を昨年度の春卒業した第48期生(藤田淳也年次主任)の4人が高校時代に取り組んで良かったことや受験にむけての心構え、大学の様子などを熱く語りました。愛知県立大・社会福祉学科の竹田茉尋



さんは、共通テストが思うようにできず第一志望を貫くかどうか、先生方とたくさん相談して決断し、「今」があると高校時代の忍耐と華やかな大学生活について話してくれました。

生徒からは受験や大学生活について多くの質問が出ました。

科学大学高校と「授業」の交流

きっかけは、「手稲高校の授業見学をしたい」という科学大高からの申し出でした。本校の先生方からも快諾いただき、10～11月本校の授業見学に9講座延べ13名の先生方がお越し下さいました。本校からは、教頭と教務部長が施設やICTの授業を視察見学してきました。また、科学大高の『ポスター発表』にもお招きいただき、「音楽は作業効率に影響するのか」や「告白を成功させる秘訣♡」など高校生の興味・関心に基づいた意欲的な発表に多くの生徒が集まり、関心を寄せていました。



『50周年記念誌』完成!

3年前から準備し、話し合いを重ね、多くの方のご協力をいただいて、ついに「50周年誌」が完成しました。

3月初旬、関係者に発送したところ、たくさんの方からお礼状をいただきました。あるOBの方は、「すばらしい編集です。時を忘れて深夜まで読み耽りました。懐かしき人々の思い出が胸一杯に拡がり血が騒ぎます。体温上昇のためなかなか寝付かれません」。あの10月の盛大な記念式典の成功とともに、後世に残るものとなれば幸いです。

